

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202403		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム 桜の詩		
所在地	静岡県清水区船越二丁目9-71		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年2月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JgvyosyoCd=2274202403-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JgvyosyoCd=2274202403-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 28年 12月 26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

公園内の緑、桜やみかん畑など駐車場やテラスで四季を楽しむことが出来ます。月に1回はイベントを行い、ご家族にも参加頂き入居者様とともに楽しんでいます。毎日の体操や歌、塗り絵や貼り絵、カルタなど健康維持に努めています。職員はホームの理念でもある笑顔を決めずやめない努力や、笑顔で入居者様と接するよう努めています。また日々穏やかな生活の支援や個別の対応、入居者様同士の交流等、温かな気持ちで支援しています。定例会では外部講師による研修を行い職員のレベルアップに努めています。医療との連携により、入居者様やご家族、職員は安心して生活しています。運営推進会議では、多数のご家族様に参加頂き、ホームの運営にご理解と協力を頂けるよう努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者と職員は事業所理念である「笑顔の絶えない明るい毎日を支援します」を実践するため、家族に相談し協力を得て、運動会・敬老会・クリスマス会・桜祭り等のイベントに家族と一緒にじゃんけんゲームや歌・踊りを楽しんだり、外出レクで出かける時車椅子を押してくれる等関わりが持てるよう支援している。利用者の思いは日頃の観察や何気なくでる言葉を聞いて把握し、隔週午後親戚の人とカラオケに行く、近くの喫茶店に食事やお茶を飲みに行く等家族と話し合っ出来ることは叶えられるように取り組んでいる。年2回の防災訓練以外に全職員が体験できるよう毎月訓練を行っている。入居時に家族は医師から説明を受け、全員協力医に変更して24時間対応の手厚い医療体制の下安心して過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の笑顔が絶えない明るい毎日になるように職員一丸となり努力をしています。散歩に出かけたり、地域の催しに参加し、地域の方達との触れ合いを大切にしています。	職員は利用者が毎日笑顔で過ごして欲しいという思いで同じ方向をみて関わろうと努め、カンファレンスの時、家族訪問時や事故があったときなどの対応について理念に戻り話し合っている。管理者が気づいたことを今月の目標にしタイムカード機に貼って職員は毎日見ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の組合に加入しており、避難訓練やお祭りに参加しています。毎年地区の子供会のお神輿がホームに来てくれるのを入居者様達が楽しみにされています。	管理者は同町内の住民で日常的に交流している。散歩の途中利用者が具合が悪くなった時近所の人から車椅子をホームに取りに来てくれたことがあった。地域の祭りに行くと「桜の詩の皆さんが来てくれました」とアナウンスされ、皆と一緒に車椅子の人も踊っている。	管理者は社協からのシニアサポーターの受け入れを検討中との事、地域住民がボランティアで訪れてくれ、より良い付き合いに繋がることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会の方の参加を求めホームの様子を伝えている。地域の行事に率先して出掛け、認知症の支援等の理解をして頂けるように努めています。推進会議では認知症についての勉強会や、職員の研修報告を行ったりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4土曜日と定め、関係各所に年間のお知らせがきを送っています。開催後は議事録も送っています。会議では質疑応答の時間を設け皆さんの意見をお聞きしています。イベントの写真を張り出して皆さんにご覧頂いています。	年間計画を立て、案内で参加を募り、包括職員・民生委員・家族は毎回数人の参加があり、2ヶ月に1度開催されている。利用者の状況報告とレク・防災・研修・感染症・事故対策など各委員会が2ヶ月間の報告を行い、参加者から質問や意見・提案等を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の年間予定を毎年通知したり、講演や研修等に参加している。生活支援課とは連絡をとり入居者様の生活に不備のないようにしている。	包括職員は公民館の催しを知らせてくれたり交流している。生活保護受給者の生活支援に担当課と連携をとっている。行政からメールでくる研修情報を見て職員は参加している。市介護相談の受け入れを検討中である。	事業所と利用者の橋渡し役としての市介護相談員の受け入れを行政に申請する取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会で研修を行ったり、カンファレンスで現状についての話し合い、外部研修に出かけた職員からの報告等で職員同士で情報を共有し間違った知識を持たないように努力しています。	研修委員が計画した研修を実施し、拘束についての理解はあるが、日常的に利用者に対応していることが拘束に当たるのではないかと事例を検討している。スピーチロックは利用者の精神的な自由を奪うと、その人にあった言葉遣いや対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護業界の虐待事件が世間を騒がせた今年には推進会議でも取り上げ、日頃の職員の様子をご家族に理解、安心して頂けるよう説明をしています。研修や事例を収集し職員間で情報を共有しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を使われている入居者様がおられるので、社会福祉協議会と連絡を密にとり、入居者様が心配なく生活できるようにしています。制度については理解している職員は少なくまだ勉強会が出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して入居して頂くために、利用者様やご家族からの質問や疑問には誠意をもって対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やケアプランの説明時にご家族や入居者様に要望や意見を伺っています。玄関には意見箱を置いており定期的に確認しています。入居者様とは日頃から話しやすい雰囲気作りを心掛けています。要望や意見は職員間で共有し、カンファレンス等で話し合っています。	家族は推進会議や面会時・イベントで参加した時などに管理者や職員に意見や要望を伝えている。家族から訪問歯科の要望があり、1階・2階別の歯科医と契約をした。認知症の理解不足で不安になって質問してくる家族に「作話」のこと等説明をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会やカンファレンスで職員の意見を聞いて話し合いをしています。職員の意見は管理者会議にもちこみ議題としています。	職員はレク・防災・事故対策・研修・感染症対策委員になっていて、月1回の委員会で意見や提案を定例会で発表し実践している。管理者は事務所の戸を開放し、職員は日常的に意見を言う機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格による昇給や定期昇給があります。離職をしない職場作りを力を入れており、福利厚生の実施、休憩時間の確保等に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修を受ける者や、外部研修を進んで受けることを出来る環境を整えています。研修案内の掲示もしています。研修委員会があり、外部からの講師による研修も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に出かけることにより同業者との交流に努めている。同業者の見学は随時オープンにしている。当社内の他グループホームとの交流や委員会活動も行っている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活の把握に努め、話しやすい環境を作ったうえでご本人の話を傾聴している。情報は職員間で共有し、安心して生活して頂けるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の話をお聞きし、意向をくみ取り安心して入居して頂けるように誠意を込めて対応しています。ご家族の不安材料を解消できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人だけではなく、ご家族からの意向も取り入れケアプランを作成しています。マッサージや医療との連携を図り、本人に「今」必要なサービスを提供するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	花の水やり、庭の掃除、洗濯干しや畳む作業、食器拭き等、個々の出来ることに合わせて家事を一緒に行っています。それぞれが自分の役割を持つことで一方的に介護されているのではなく支えあう関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の月次報告書や、桜の詩通信によりご本人の様子を伝えると同時にイベントのお知らせをしています。ご家族参加型のイベントを開催しています。ご家族との面会や外出、電話での会話を積極的に支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や電話ができるような環境作りに努めている。ご家族との外出、外食も自由に出来るようにマッサージや受診の時間を調節し支援している。	カラオケの好きな利用者が親戚の人と一緒に隔週午後出かける、家族が連れに来て自宅の飲食店で兄弟が集まり一緒に会食する機会が継続できるよう支援している。公園に行くとき近所の人が寄ってきてくれ、交流を続けている人がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士をお誘いし、ドライブや外食、お茶を飲みに出かけ楽しい時間を作るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、季節ごとの挨拶状を失礼のないように送っています。また退居されたから数年たってもご家族から年賀状を頂いたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の御意向を伺い、その方に応じたケアプランを立て、職員間で共有し支援に努めています。困難な場合は、本人の思いをくみ取り家族とも話し合いケアプランを立て実行に繋げている。	散歩や買い物に行ったときに不通になっている「息子に会いたい」など本音を聞けることがある。利用者の険しい表情を見たとき、家族に以前のライルスタイルや性格を聞いて、ドライブなどに誘う等の対応で穏やかに楽しく過ごせるよう対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスを出来るだけ詳しく記入し職員間で情報を共有している。入居後もご本人の様子によっては再度ご家族から情報を提供して頂き少しでも今までの暮らしに近い生活をして頂けるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを徹底し、職員間で情報を共有し、一人ひとりの状態の把握に努めている。カンファレンスで情報、意見交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開き、モニタリングは職員全員で行い、いろんな視点からご本人の現状を把握できるよう努めている。本人やご家族との話し合いの時間を設けより良く生活できるように支援している。	計画作成者は家族にメールで連絡を取ったり、ファックスを使って家族に事業所での様子を知ってもらい話し合う時間を作るようにしている。担当職員が中心になってカンファレンス会議を開き話し合っており、その人にあった現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを徹底し日々の様子やプランの実践等を把握している。毎月プラン一覧表を作成し、職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が不穏の際は個別対応でドライブにお誘いしたり、ご家族と電話で話す時間を作る等の対応をしている。ご家族の不安やご本人には言えない悩み等は時間を作り話を伺い少しでも安心して頂けるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の高校の将棋部がボランティアに訪問され若い人たちとの交流を楽しんで頂いている。中学生の職場体験も毎年受け入れている。住み慣れた近隣の方の面会を受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターの定期診察が月に2回あり、その他にも体調の変化がある場合は臨時往診も迅速に対応している。薬の服薬相談もかかりつけの薬局に相談、援助を受けている。	家族は入居時にクリニック医師に説明を受け、利用者全員クリニックの協力医に変更している。24時間対応で電話で状態を伝えると緊急時も往診してくれている。今年家族からの希望で訪問歯科の契約をし、家族・職員の通院支援は少なくなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2度の定期受診の他に、毎週訪問看護師により健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ホームでの生活状況や、入院に至る経緯を詳しく説明しドクターや看護師との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在までホームで終末期を迎えた入居者様はいませんが、入居時や推進会議等で看取り等の説明をしており、早い段階からご家族の意向を伺うとともにホームドクターと連携を図っている。ホームドクターや訪問看護師による看取りの研修を行っている。	入居時に看取りの指針を説明し、本人・家族の意向の確認はしている。状態が変化した時、医師から説明を受け、医師・家族と今後の方向性を話し合っている。家族の協力が得られ、医療連携をとって事業所での看取りを支援する体制はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急法の研修に参加したり、医師によるその時期に応じた研修を受けている。対応をマニュアル化し即時に対応できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ほぼ毎月防災訓練を行っており、すべての職員が対応できるように努めている。当社で災害時事業継続計画(BCP)の研修を頻回に行っている。	防災委員が計画を立て、年2回以外に毎月防災訓練を行っている。裏山が崩れたことを想定し1階の利用者を担架で抱き上げ2階へ避難する訓練や消防署が立ち合い「非難は安全を考えて10分以内に」などアドバイスを受けいている。推進会議で報告している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう、個々の対応や声掛けに気を遣い、穏やかに生活して頂けるように心掛けている。勤務年数の長い職員などには繰り返し注意を促している	昨年の目標達成計画で取り上げ、今年は接遇の研修を行い、事例検討し情報の共有をする取り組みを行っている。声掛けや言葉使いはその人の性格や状態に合わせた個別対応をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた環境の中での傾聴を心掛けている。解り易い声掛けで、思いを引き出せる会話に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人そのために の企業信条に沿い、個々の生活や行動を優先出来るよう、その日の職員が話し合い希望に添えるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	若いころや入居前の生活を伺い、その方の生活スタイルや思いに添えるよう支援している。季節に合った服装など、ご家族に相談しながら衣替えを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつを提供したり、近所の喫茶店におやつを食べに出かけたりしています。餃子作りや、いなり寿司、フライの衣つけ等、皆様に手伝って頂きながら一緒に作ったりしています。食材の買い物には入居者様同行で出掛けています。飲みたい物、食べたい物のリクエストをお聞きしています。	3食共職員の手作りで、毎食時に利用者が交代で「今日は何日何曜日、何食をいただきます」と挨拶をしている。テレビを消しラジオやCDをかけ、間に入った職員と会話をしながら楽しく食事をしている。外食に行ったり、手作りおやつなど楽しめる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量をチェック、一日の水分量は必ずチェックしており、体重も入浴毎に測定しています。一人一人の好き嫌いの把握をし、職員間で情報を共有しています。栄養バランスについては薬剤師、ドクター、看護師に相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、見守り、仕上げ介助等を行い、口腔内の清潔を心掛けています。義歯の消毒、口腔ケアグッズの消毒も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を生かし、一人ひとりの排泄のパターンの把握に努め声掛け誘導しています。リハパン使用から布パンツに変更になった方がこの1年で2名おられます。	失敗した時に不穏になってしまう人や神経質な人などの家族に気になることを相談し、個別に合わせた声掛けで本人が安心してトイレで排泄できるよう試行し、申し送りノートに記録して全職員で共有するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に細かく記録し排便が何日ないかを把握している。起床時は毎朝お水、または牛乳を一杯飲んで頂き、食後にはトイレに行き座る習慣を作っています。ドクター、看護師、薬剤師との連携を図り予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3種類の入浴剤を用いて入居者様に選んで頂いています。入浴時間をゲーム感覚でじゃんけんで決めたり、個々の外出、希望に合わせて柔軟に対応しています。入浴表を作り清潔を保てるよう努めています。	毎回風呂の水を落とし洗って、利用者はいつも1番風呂で気持ちよく入浴している。毎日午後3~4人が入っていて、拒否する人は少ないが「足だけ暖めよう」と声掛けし浴室に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も休みたい方は休んで頂いています。時には居間のソファで休まれる方もいます。温度管理(空調等)を行い心地よい睡眠がとれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	指定の薬局の薬剤師と連携を図っており、連絡、相談はまめに行っている。薬剤師による薬の研修を行い職員の薬に対する知識を高めるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(食器拭き、洗濯干し、畳む作業、掃除等)それぞれの状態に合わせて役割を決め分担任して行っています。食べることが好きな方とは外食、団体行動が苦手な方とは個別ドライブ等、散歩、買い物等で気分転換を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、買い物同行、ドライブ等個々の希望を聞いて実行しています。地域の行事に出かける際は、ご家族に同行の協力をお願いしています。	天候を見て外気浴や散歩など外に出る機会を多くするように支援している。外出レクで出かける時、家族に声を掛け車椅子を押してもらいなどの協力を得ている。家族と外出する機会も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食時にその方の状況に合わせて、ご自分でお財布を所持し、払って頂く方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族等に電話をかけられるように支援しています。ご家族や大切な人にこちらから季節の挨拶状を出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のカレンダーを作り、入居者様にちぎり絵または塗り絵をして頂いたものを掲示しています。また入居者様の年代に合わせた音楽CDをかけています。イベントの写真を掲示しており、入居者様同士でご覧になられていることもあります。テラスでは花や野菜を育てており居間からの景色を楽しめるよう工夫しています。	南向きのホールは明るく、厨房の位置からは利用者の状態が見やすく、すぐ対応が出来る。窓際や壁際のソファの位置は利用者がゆったりと日向ぼっこができたり、テレビが見える。壁にイベントの写真が多数飾られ会話に繋がっている。玄関には生花を飾り、手作りカレンダーや作品から季節を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファが置いてあり気の合う同士で利用できるようになっています。テラスにはテーブルと椅子も用意してあり外気浴やテラスでお茶を飲まれることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の慣れ親しんだ家具が配置されており、ご家族との写真や、誕生日の色紙等が飾ってあります。仏壇を持ち込んでおられる方もいらっしゃいます。	居室の前にクリスマスやお正月の飾りと花の名前の木札が貼ってある。各部屋のクローゼットに荷物が整理され、家から持ち込んだ馴染みの筆筒やテレビ・テーブルなどが転倒しないよう動線に配慮している。家族の写真や手作り作品でその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの建物内はバリアフリーになっています。回廊式になっており、歩行練習に回られたりしています。安全に行えるよう支援しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202403		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム 桜の詩		
所在地	静岡県清水区船越二丁目9-71		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

公園内の緑、桜やみかん畑など駐車場やテラスで四季を楽しむことが出来ます。月に1回はイベントを行い、ご家族にも参加頂き入居者様とともに楽しんでます。毎日の体操や歌、塗り絵や貼り絵、カルタなど健康維持に努めています。職員はホームの理念でもある笑顔を絶やさない努力や、笑顔で入居者様と接するよう努めています。また日々穏やかな生活の支援や個別の対応、入居者様同士の交流等、温かな気持ちで支援しています。定例会では外部講師による研修を行い職員のレベルアップに努めています。医療との連携により、入居者様やご家族、職員は安心して生活しています。運営推進会議では、多数のご家族様に参加頂き、ホームの運営にご理解と協力を頂けるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2274202403-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202403-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 28年 12月 26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の笑顔が絶えない明るい毎日になるように職員一丸となり努力をしています。散歩に出かけたり、地域の催しに参加し、地域の方達との触れ合いを大切にしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の組合に加入しており、避難訓練やお祭りに参加しています。毎年地区の子供会のお神輿がホームに来てくれるのを入居者様達が楽しみにされています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会の方の参加を求めホームの様子を伝えている。地域の行事に率先して出掛け、認知症の支援等の理解をして頂けるように努めています。推進会議では認知症についての勉強会や、職員の研修報告を行ったりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4土曜日と定め、関係各所に年間のお知らせはがきを送っています。開催後は議事録も送っています。会議では質疑応答の時間を設け皆さんの意見をお聞きしています。イベントの写真を張り出して皆さんにご覧頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の年間予定を毎年通知したり、講演や研修等に参加している。生活支援課とは連絡をとり入居者様の生活に不備のないようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会で研修を行ったり、カンファレンスで現状についての話し合い、外部研修に出かけた職員からの報告等で職員同士で情報を共有し間違った知識を持たないように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護業界の虐待事件が世間を騒がせた今年には推進会議でも取り上げ、日頃の職員の様子をご家族に理解、安心して頂けるよう説明をしています。研修や事例を収集し職員間で情報を共有しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を使われている入居者様がおられるので、社会福祉協議会と連絡を密にとり、入居者様が心配なく生活できるようにしています。制度については理解している職員は少なくまだ勉強会が出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して入居して頂くために、利用者様やご家族からの質問や疑問には誠意をもって対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やケアプランの説明時にご家族や入居者様に要望や意見を伺っています。玄関には意見箱を置いており定期的に確認しています。入居者様とは日頃から話しやすい雰囲気作りを心掛けています。要望や意見は職員間で共有し、カンファレンス等で話し合っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会やカンファレンスで職員の意見を聞いて話し合いをしています。職員の意見は管理者会議にもちこみ議題としています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格による昇給や定期昇給があります。離職をしない職場作りを力を入れており、福利厚生の実施、休憩時間の確保等に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修を受ける者や、外部研修を進んで受けることを出来る環境を整えています。研修案内の掲示もしています。研修委員会があり、外部からの講師による研修も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に出かけることにより同業者との交流に努めている。同業者の見学は随時オープンにしている。当社内の他グループホームとの交流や委員会活動も行っている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活の把握に努め、話しやすい環境を作ったうえでご本人の話を傾聴している。情報は職員間で共有し、安心して生活して頂けるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の話をお聞きし、意向をくみ取り安心して入居して頂けるように誠意を込めて対応しています。ご家族の不安材料を解消できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人だけではなく、ご家族からの意向も取り入れケアプランを作成しています。マッサージや医療との連携を図り、本人に「今」必要なサービスを提供するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	花の水やり、庭の掃除、洗濯干しや畳む作業、食器拭き等、個々の出来ることに合わせて家事を一緒に行っています。それぞれが自分の役割を持つことで一方的に介護されているのではなく支えあう関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の月次報告書や、桜の詩通信によりご本人の様子を伝えると同時にイベントのお知らせをしています。ご家族参加型のイベントを開催しています。ご家族との面会や外出、電話での会話を積極的に支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や電話ができるような環境作りに努めている。ご家族との外出、外食も自由に出来るようにマッサージや受診の時間を調節し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士をお誘いし、ドライブや外食、お茶を飲みに出かけ楽しい時間を作るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、季節ごとの挨拶状を失礼のないように送っています。また退居されたから数年たってもご家族から年賀状を頂いたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の御意向を伺い、その方に応じたケアプランを立て、職員間で共有し支援に努めています。困難な場合は、本人の思いをくみ取り家族とも話し合いケアプランを立て実行に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスを出来るだけ詳しく記入し職員間で情報を共有している。入居後もご本人の様子によっては再度ご家族から情報を提供して頂き少しでも今までの暮らしに近い生活をして頂けるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを徹底し、職員間で情報を共有し、一人ひとりの状態の把握に努めている。カンファレンスで情報、意見交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開き、モニタリングは職員全員で行い、いろんな視点からご本人の現状を把握できるよう努めている。本人やご家族との話し合いの時間を設けより良く生活できるように支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを徹底し日々の様子やプランの実践等を把握している。毎月プラン一覧表を作成し、職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が不穩の際は個別対応でドライブにお誘いしたり、ご家族と電話で話す時間を作る等の対応をしている。ご家族の不安やご本人には言えない悩み等は時間を作り話を伺い少しでも安心して頂けるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の高校の将棋部がボランティアに訪問され若い人たちとの交流を楽しんで頂いている。中学生の職場体験も毎年受け入れている。住み慣れた近隣の方の面会を受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターの定期診察が月に2回あり、その他にも体調の変化がある場合は臨時往診も迅速に対応している。薬の服薬相談もかかりつけの薬局に相談、援助を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2度の定期受診の他に、毎週訪問看護師により健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ホームでの生活状況や、入院に至る経緯を詳しく説明しドクターや看護師との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在までホームで終末期を迎えた入居者様はいませんが、入居時や推進会議等で看取り等の説明をしており、早い段階からご家族の意向を伺うとともにホームドクターと連携を図っている。ホームドクターや訪問看護師による看取りの研修を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急法の研修に参加したり、医師によるその時期に応じた研修を受けている。対応をマニュアル化し即時に対応できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ほぼ毎月防災訓練を行っており、すべての職員が対応できるように努めている。当社で災害時事業継続計画(BCP)の研修を頻回に行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう、個々の対応や声掛けに気を遣い、穏やかに生活して頂けるように心掛けている。勤務年数の長い職員などには繰り返し注意を促している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた環境の中での傾聴を心掛けている。解り易い声掛けで、思いを引き出せる会話に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人そのために の企業信条に沿い、個々の生活や行動を優先出来るよう、その日の職員が話し合い希望に添えるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	若いころや入居前の生活を伺い、その方の生活スタイルや思いに添えるよう支援している。季節に合った服装など、ご家族に相談しながら衣替えを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつを提供したり、近所の喫茶店におやつを食べに出かけたりしています。餃子作りや、いなり寿司、フライの衣つけ等、皆様に手伝って頂きながら一緒に作ったりしています。食材の買い物には入居者様同行で出掛けています。飲みたい物、食べたい物のリクエストをお聞きしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量をチェック、一日の水分量は必ずチェックしており、体重も入浴毎に測定しています。一人一人の好き嫌いの把握をし、職員間で情報を共有しています。栄養バランスについては薬剤師、ドクター、看護師に相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、見守り、仕上げ介助等を行い、口腔内の清潔を心掛けています。義歯の消毒、口腔ケアグッズの消毒も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を生かし、一人ひとりの排泄のパターンの把握に努め声掛け誘導しています。リハパン使用から布パンツに変更になった方がこの年で2名おられます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に細かく記録し排便が何日ないかを把握している。起床時は毎朝お水、または牛乳を一杯飲んで頂き、食後にはトイレに行き座る習慣を作っています。ドクター、看護師、薬剤師との連携を図り予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3種類の入浴剤を用いて入居者様に選んで頂いています。入浴時間をゲーム感覚でじゃんけんで決めたり、個々の外出、希望に合わせて柔軟に対応しています。入浴表を作り清潔を保てるよう努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も休みたい方は休んで頂いています。時には居間のソファで休まれる方もいます。温度管理(空調等)を行い心地よい睡眠がとれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	指定の薬局の薬剤師と連携を図っており、連絡、相談はまめに行っている。薬剤師による薬の研修を行い職員の薬に対する知識を高めるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(食器拭き、洗濯干し、畳む作業、掃除等)それぞれの状態に合わせて役割を決め分擔して行っています。食べることが好きな方とは外食、団体行動が苦手な方とは個別ドライブ等、散歩、買い物等で気分転換を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、買い物同行、ドライブ等個々の希望を聞いて実行しています。地域の行事に出かける際は、ご家族に同行の協力をお願いしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食時にその方の状況に合わせて、ご自分でお財布を所持し、払って頂く方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族等に電話をかけられるように支援しています。ご家族や大切な人にこちらから季節の挨拶状を出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のカレンダーを作り、入居者様にちぎり絵または塗り絵をして頂いたものを掲示しています。また入居者様の年代に合わせた音楽CDをかけています。イベントの写真を掲示しており、入居者様同士でご覧になられていることもあります。テラスでは花や野菜を育てており居間からの景色を楽しめるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファが置いてあり気の合う同士で利用できるようになっています。テラスにはテーブルと椅子も用意してあり外気浴やテラスでお茶を飲まれることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の慣れ親しんだ家具が配置されており、ご家族との写真や、誕生日の色紙等が飾ってあります。仏壇を持ち込んでおられる方もいらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの建物内はバリアフリーになっています。回廊式になっており、歩行練習に回られたりしています。安全に行えるよう支援しています。		